

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0190501411), 法人名 (社会医療法人 共栄会), 事業所名 (グループホーム まいホーム川北 C館), 所在地 (札幌市白石区川北2条1丁目7-8), 自己評価作成日 (令和3年9月10日), 評価結果市町村受理日 (令和3年11月9日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190501411-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年10月4日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・認知症の進行やADLの低下等で日常生活への支障が増えても出来るだけ楽しく・不安なく生活できる様に支援しています。本人の嗜好を取り入れ食事を楽しんで頂けるように献立を考えています。ホームの畑に色々な野菜を植えて職員と共に収穫し食事に取り入れています。
・毎年「ふるさと会の丁稚奉公」や高校生の施設見学を受け入れていましたが、今年はコロナ禍で実施できませんが落ち着いたら、また再開したいと考えています。
・町内会の活動もコロナ禍で縮小され、例年参加していたゴミ拾いや防災訓練が中止になりましたが、再開されたら参加を考えています。
・今年は推進会議も書面会議形式になっており、構成員が一同に集まる事が出来ていませんが、電話連絡で確認を取り合い議事録配布しており、地域との関わりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念があり、管理者・職員は、それを共有し実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍の為、今年は交流は減少しているが、コロナが落ちつけば例年行われているゴミ拾いやお祭りなど地域行事に参加して行きたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、今年は出来ていないが、コロナが落ちつけばまた「ふるさと会」が主催する丁稚奉公や高校生の施設見学などを受け入れていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、書面会議という形式で行っており、事前に各構成員に議題提供等の確認をし、開催前にコロナ禍の状況を踏まえた開催形式の確認を取っている。ホームの状況は議事録を通し伝える事は出来ている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケア連絡会もZoom開催になり、介護保険更新時の調査も減少しているが必要時は電話連絡をするなどして、協力関係は築く様に努力している		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年はコロナ禍の為、身体拘束廃止に関する研修会に参加出来なかったが、身体拘束廃止委員会やホーム内での研修を開催し、身体拘束をしないケアに努めている。玄関の鍵は夜間防犯の為に使用している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年はコロナ禍の為、研修会に参加は出来ていないがホーム内での身体拘束廃止研修の際に関連付けて学び、虐待が起きない様にお互いに注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の開催が少なく、今年はコロナ禍という状況の為、研修などに参加出来ていないが、成年後見制度を利用している利用者があり、必要時は担当者と話し合うなど制度に対する理解や活用が出来る様に努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、契約・解除、および利用などに関して理解して頂ける様努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、意見を聞く機会を設けており、また面会時や電話連絡の時などにも意見を聞く様になっている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議や、管理者は運営会議等で意見や提案を聞く機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休が取れ、定期的な健康診断やストレスチェックが実施され環境面での配慮がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年はコロナ禍の為、参加・開催が出来ていないが、通常は外部研修を受ける機会が確保されており定期的に法人開催の勉強会やホーム内での勉強会があり学ぶ機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、例年ならば在宅ケア連絡会などでも交流の機会があるが今年はコロナ禍の為ほとんど交流できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に困っている事・不安な事・要望など確認している。ホーム内の見学はコロナ禍の為、短時間でお願いしており、また、出来るだけ直接面談する様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や入居前の面談等で不安な事や要望を確認しながら信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式を利用して生活歴や本人が困っている事・不安な事の把握に努め本人・家族・職員間でズレが生じないように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をして、掃除・タオルたたみ等の家事をしたり、個々の得意な事を発揮して頂けるように留意し共に暮らす関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話時に本人の状況報告し、情報を共有する等して、共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話でのやり取りが出来る様に援助している。現在はコロナ禍の為、外出や馴染みの美容室には行けていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様に職員が仲介したり、利用者同士の関係を把握して良好な関係が築けるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は連絡を取り合う事はほとんどないが、退去されたご家族から連絡や相談を頂く事があり、その際は快く相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生い立ちを考慮し日々の言動や表情から、思いを把握できるように努めている。困難な場合はご家族に情報を頂いたり相談する等して把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報・ケアマネージャーやサービス事業者と連絡を取り合い生活歴や馴染みの場所・生活環境等これまでのサービス利用の経緯の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を利用したり、今できる事を表情や行動から把握できるように努めている。また毎日最低1回は血圧測定と検温を行い体調を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との会話や言動・家族に要望や意見を伺い計画に反映させている。月1回モニタリングを行い会議で話し合い現状の確認・修正をして現状に合った計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に沿った個別記録に記載し勤務開始前に記録を読み確認している。また、引き継ぎで情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で外出行事が出来ていないが、法人の車両を利用できる体制がある。また、デイケアや訪問看護など法人内での利用可能な体制がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容や札幌市のオムツサービス事業を利用出来ている。コロナ禍で今年には行えていないが、落ち着いたら町内会行事への参加や、以前のように運営推進会議に民生委員や近隣住民の参加を予定している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する病院を受診出来る様に手配したり、状況に応じて医療機関に必要な情報提供が出来る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職としての配置は無いが、看護師資格を有する職員を確保している。介護記録を基にかかりつけ医や看護師に相談したり、法人の訪問看護とも情報交換している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は添書などを基に情報交換を行い入院によるダメージを防ぐための配慮をしている。コロナ禍の為面会は出来ないが相談員や病院職員と連絡を取り状況確認や情報交換などをして早期退院できる様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	法人として看取りをしない方針だが、重度化の指針について説明し状況変化時は早期から家族と話し合いをしている。法人の訪問看護を利用し、また身体面での異常の早期発見が出来る様にバイタルチェックをし職員間で情報共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDや窒息時用吸引器具・パルスオキシメーター・感染時用ガウン類等を準備しており、急変時のマニュアルも各フロアにあり、いつでも確認出来る様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルや災害マップを配置しており、火災・地震・水害時の避難訓練を実施している。非常食もローリングストック方式で補充し、災害時備品も少しずつ増やしている。避難場所の地図もご家族に送付している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重しプライバシーを損ねない様に心掛けており、特に排泄時には配慮している。けれど、時に安全確保を優先する場合はプライバシーを損ねないとは言えない場合がある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る様に個人に合った声掛けをしたり、言葉の理解が難しい場合には表情や行動を確認する事で思いを察して、対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや生活パターンを大切に希望に沿った過ごし方が出来る様に配慮している。入浴時間等の対応では、時に職員の都合を優先している場合がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍の為馴染みの美容室に行くことができない。衣類などの購入時は好みの色やデザインを考慮して選ぶようにして本人の希望に沿った身だしなみやおしゃれが出来る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みを把握し献立に取り入れている。また、一緒に食事の後片付けをしたり畑で栽培した野菜の収穫を楽しみながら食材として利用している。盛り付ける際も量・見た目や形状など一人ひとりに合わせて工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェックをし把握している。個々の状況に応じて食事量や食べやすいように食事形態を変えて提供し、脱水にならない様に水分提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状況に合わせて毎食後、うがいや歯磨きの支援をしている。また必要時は歯科受診に繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し様子を伺いながら失敗のない様トイレ誘導しており、出来るだけオムツを使用する時期を遅くするように努力している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や乳製品などの飲食物の工夫や、ラジオ体操を取り入れ運動の機会を作る様にしている。下剤を処方されている場合は状況に合わせて調節をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	就寝前の入浴には対応出来ていないが、時間を決めず本人の希望に合わせて入浴できるように支援している。入浴拒否が多い利用者には誘導の仕方を工夫する等の対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の状況に応じて休息を勧めたり個人の好みの照明(明るさ)で眠れるように支援している。また睡眠導入剤を内服している場合は睡眠状況を把握し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容の用紙を管理し、内服薬は副作用を含め理解しており、正しく内服できたか、また内服後の状況を観察し記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせて役割や楽しみ事が出来る様に配慮し、趣味や家事が無理なく行える様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為美容室利用や家族との外出・町内会行事参加は出来ていないが、デイケアの利用は継続出来ており、コロナが落ち着けば外出行事を含め再開したいと考えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自己管理できる利用者がいないが、お金を持つ事の大切さは理解している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、自分から手紙や電話利用を申し出る利用者はいないが、いつでも電話利用できる体制はある。また家族からの電話時には対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けを一緒にしたり、日当たり・室温に配慮している。混乱を避けるため分かりやすい様に場所を表示する等している。居室に温・湿度計を設置し確認調節している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室や食堂など共用空間でも他者の視線を感じない様に椅子や家具を配置したりしている。又、感染予防のため1席分空けて座る工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で使用していた家具や品物、好みの物を持参して頂き居心地良く過ごして頂ける様配慮している。また、買い替えが必要な場合にも似たような物や本人の好む物を選ぶようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手すりやエレベーターを設置している。個々にあった生活が送れる様に工夫し目印となる貼り紙を目線の位置に貼る等の配慮をしている。		